

# 令和3年度学校運営連絡協議会実施報告書

令和4年3月26日  
東京都立板橋高等学校

## 1 組織

- (1) 都立板橋高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 主幹教諭(保険庶務主任)=事務局長、副校長 計2名
- (3) 内部委員の構成：校長、副校長、経営企画課（室）長、主幹教諭(教務担当)、主幹教諭(生活指導担当)、進路指導主任、主幹教諭(保健庶務担当) 計10名
- (4) 協議委員の構成（氏名の掲載も可）  
学識経験者(大学教授)、都立高校校長経験者、近隣中学校長、近隣小学校長、近隣自治会長、警察署  
スクールサポーター、同窓会長、PTA会長、 計9名

## 2 令和元年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
  - 第1回 令和2年6月25日（金曜）書面開催  
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出  
学校経営計画、昨年度の学校運営連絡協議会の課題  
本校の現状と課題等説明、意見交換
  - 第2回 令和2年11月26日（金）内部委員10名、協議委員5名  
これまでの教育活動に関する報告、協議委員からの教育活動に対する意見、  
学校評価の内容検討、協議
  - 第3回 令和2年2月10日（木曜）書面開催  
学校評価の報告及び学校運営に関する提言、協議  
次年度に向けた方向性の確認
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
  - 第1回 令和2年11月26日（金）（金曜）書面開催  
学校評価の基本方針の確認、実施に向けた検討、今年度の学校評価の観点・項目、内容の検討、  
実施時期の検討
  - 第2回 令和2年2月10日（月曜）書面開催 アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理

## 3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点  
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

・12月	全校生徒	対象：811人	回収：757人	回収率：93%
・12月	保護者全員	対象：811人	回収：573人	回収率：71%
・12月	地域・住民	対象：30人	回収：16人	回収率：53%
・12月	教職員	対象：47人	回収：47人	回収率：100%
- (3) 主な評価項目  
・学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、ライフワーク・バランスの推進
- (4) 評価結果の概要（校長や学校全般への意見・提言内容）

全体として、前年と傾向は大きく変わらず、肯定的評価はおおむね横ばいか向上傾向にある2年間のコロナ禍による影響が大きい、その中での様々な工夫、学校の努力が支えていたと考えられる。  
昨年同様、生徒の状況に関する質問に対して、生徒や保護者より教員の肯定的評価が少ない傾向にある。

  1. 生徒が学校生活に満足  
昨年より微減したが8割以上の生徒が満足している。コロナ禍を考えると、学校の努力が見える。
  2. 主体的な学習習慣も身につけていく傾向にあるが、先生が満足できるレベルにない。
  3. 生徒の読解力には改善傾向があるものの、引き続き課題があり、教員は不足に感じている。
  4. 学力をつける授業  
昨年より肯定的評価（AB合計）が向上、様々な学習活動で生徒の学力をつけようとする教員の姿勢を生徒が信頼していることの現れといえ、好ましい傾向である。
  5. 学習時間の確保、自分で学習を進められることが喫緊の課題である。図書館がよく活動しており、生徒にもっとアピールし、更なる活用が期待できる。
  6. 特進クラスについて  
指定校推薦による進学が多くなり、進学に有利というイメージが後退。「特進クラス所属すれば大学に行ける」という短絡でなく、特進クラスで力のつけさせ方を考える視点で、特進クラスでの学習のメリットを感じさせる方策、学習指導を工夫して充実を図る必要がある。

## 7. 学校行事・生徒会活動・8. 部活動

コロナ禍の中で維持。状況の中でもできるだけのことをしようという学校の姿勢が生徒に伝わっている。コロナ禍の状況に応じた中で、できるだけのことをしようとしている学校の姿勢が生徒に伝わっていると考えられるのは、とても良い傾向である。残念な思いをしている生徒について、フォローしていく必要がある。部活動と、教員の勤務・負担について外部人材の活用等併せて考えていってほしい。

## 9. 遅刻しない 10. 身だしなみができている

生徒の意識は、引き続き向上しているが、教員は不足に感じている。更に学校外部からも評価を得、生徒の意識が高まるように、生徒や保護者の顕彰等、取り組みを進める。

## 11. 相談できる先生

教員が日々の授業で目配りをしている。一方、相談できる先生があまりいないと感じている生徒が一定数いる。生徒が先生にうまくリンクし、相談できる環境を整備する必要がある。

## 12. 進路の実現につながる指導・13. 将来の目標の意義

コロナ禍の中で維持している。できるだけのことをしようとする姿勢が伝わっている。

## 14. 地域の受け止め方

外から見て、学校が活気づいている、身だしなみ等よくなっているとみられている。

施設を使わせてほしい、情報発信をしてほしいといった要望がある。

## 4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

### （1）全般について

2年続くコロナ禍の中、先生、保護者、生徒の皆さんが手探りだった。反面、前例のない中においても何が最善であるかを考えて行動したことは、例年とは別の意味で良い結果をもたらしたと考えられる。

教員の自己効力感を上げること、成果の上がっている面や生徒をもっと意識すべきである。

### （2）学習関係について

生徒が自発的に勉強する方策、「何を教えたか」でなく「生徒が何を身につけたか」を考えていく。

生徒が学校に目を向けて活動し、勉強への価値を感じる目的意識・興味関心、勉強への意識を高める。

「強制的にやらせること」と「内的動機づけ」の二本立てを、システムも含め組み立てていく。

進学希望以外の生徒もいる中で、勉強への意欲を引き出す方策を考えていく。

少しずつではあっても、生徒が良い方向へ変わっていくように戦略を考える。

### （3）進学に特化したクラス編成について、充実させていくことが課題である。

学習時間については、生徒、保護者ともに不足していると捉えている。

### （4）学校行事や部活動について

学校行事や部活動の項目の生徒の満足度が、先生の考える満足度よりも大きい。コロナ禍の状況下で行事の工夫により生徒の満足感が上がった経験も活かす。部活動の試合の結果も学校評価に記載するとよい。

### （5）生活指導について

遅刻や身だしなみについてについて、地域の方からも好意的な感想が多く聞かれ、指導の効果が上がってきている。しかし生徒の回答に比して教員は満足していない。

生徒には自律を教え、ほめて個性を伸ばす・好きなことを探すなどを通じ、やはり自律の芽を育ててほしい。

### （6）教育相談について

教員側の相談体制は良い。更に生徒からみて相談できる先生にアクセスしやすい体制を築いてほしい。

### （7）進路指導について

進路指導については、学習指導要領の改訂や大学入試の変化など、社会の変化に対応しながら、生徒に将来の目標を抱かせる指導、大学入試（入試問題をいかに解くのかといったこと）でなく、同窓会、保護者の会の人的な支援（進路講演会、人材バンク）、大学の研究室訪問等、外部も含め、資源の活用を考え、生徒の入学時からの指導を検討、構築することが課題である。

### （8）ライフワークバランスについて

業務が効率化できないことは、外に発信しながら、さらに何か先進的な、画期的なことも生み出せばよい。

### （9）その他 地域アンケートの配布先や配布方法等は、工夫が必要である。

## 6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

### （1）協議委員人数 9人

### （2）学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
7	0	1				1

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果 【実績】 なし

## 8 その他

- ・保護者のアンケート回収率を更に高めるため、質問内容を含め検討の必要がある。
- ・評価精度の更なる向上のため、学校公開の機会を増やしていく。